第126号
発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館
毎月1回15日
定価 1部 5円

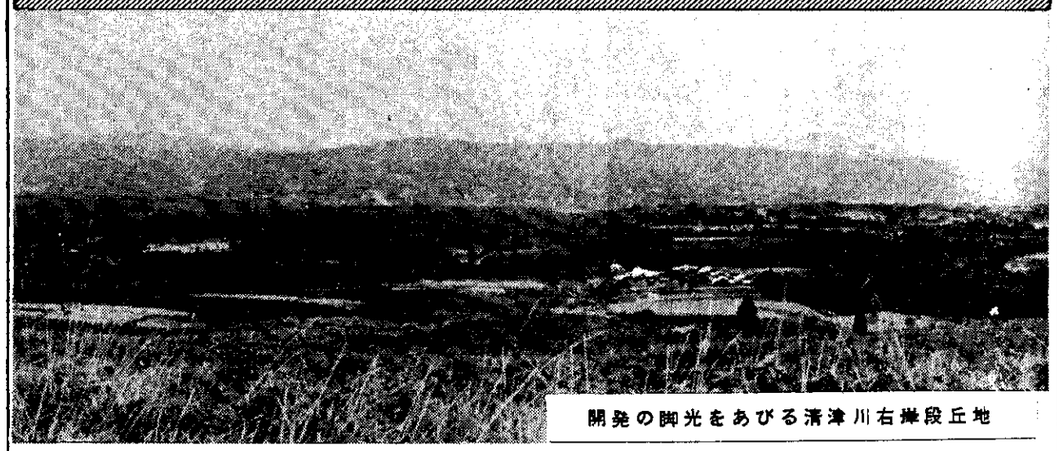
なかさと

私たちの村

人口	8,442
男	4,170
女	4,272
世帯数	1,715

11月1日現在

創立十周年記念特集 躍進する中里村



開発の脚光をあびる清津川右岸段丘地

―ごあいさつ―
創立十周年をむかえて
中里村長 高橋幸作

菊花薫るよき日、中里村創立十周年記念及び総合事業の成功を祝うことができますことは、私ども中里村民の等しく感激にたえないところであります。かえりみますと、昭和三十年三月三十一日田沢村、倉俣村は古い歴史を閉じて新しい村、中里村として力強く一歩を踏み出したのであります。続いて昭和三十一年四月一日津南町との境界変更により大字田代区域が編入され同年九月三十日貝野村の一部を編入合併して現在の中里村は創立されたのであります。この間、多数の方々の苦労は実に並並ならぬものがありましたが、創立十周年をむかえるにあたり村民の皆さんと共に当時を偲び思いを新たにするところであります。然しと幾多の曲折と困難はあったのでありますが、幸いにして関係者の努力と住民各位のご協力によって現在の中里村は緩えられ育まれて参りました。中里村は自治の本義に基づき、自主を重んじ行政の公正を期し住民福祉の増進に精一ぱいの努力を続けて行くものであります。町村合併は、完成したとはいうものゝ財政に又規模に未だ検討を要する点は、残されておりますが、当時の意気を忘れず、より良き村の発展のため皆さんと共に邁進しなければならないと考えております。

次に合併以来行政能率上多くの不便を感じつつも新村建設の諸事業に制約され計画できなかった役場庁舎の建設もこれ以上待つことが出来なくなった為、昨年七月着工いたしました。この計画に当りましては第一線行政機関の使命にかんがみまして あくまでも村民本位の観点に立って明るく親しみやすいふんいきを醸りとむと共に将来をも考え、鉄筋三階建とし勝れた設計の中から成案を得まして、施工に移り本年六月十四日落成いたしました。中央地区の簡易水道事業を始め、清津峡小学校の改築事業、辺地対策事業、林道整備事業等、ここにめでたく竣功しましたことは、ひとえに村民の皆さんのご協力とご指導ならびに工事関係者の献身的なご努力のたまものでありまして、この機会に心からお礼申し上げます。創立十周年を機とし、心を新たにしてより一層村政に励み住民の皆さんのご期待に添えたいと存じております。

清津川段丘地開発に着工
起工式を田沢中で

来る十九日、田沢中学校で清津川右岸段丘地区県営総合開拓パイロット事業起工式が行なわれる。この事業は県が五ヵ年計画で、総工費七億二千万円を投じて行なうもので、本年度分事業費五千万円で鹿島建設が落札、程島地区から隊道を八百七十尺掘さくし、年次計画五ヵ年間に完成する。同事業は清津川右岸段丘地にポンプで水をあげ、三百三十九ヘクタールの開田を行なうものである。すでに清津川土地改良区の組合事務所をかまえ事務作業に入っている。尚同組合の初代総代は、立候補者が定員の三十三名にとどまり、無競争当選がきまった。

―随想―
読書の秋
中里村公民館長 斉藤大馨

秋もいよいよ深まり、四囲の山々も一日毎に文字通り千紫万紅の色彩をなしてきた。時の流れは早いもの、私共の村も既に合併中里村として開村十周年を記念する年ともなった。思えば色々のことが走馬燈のように浮んでくる。ともかく日に日に発展する姿、これもその衝に当る方々の精進努力に待つものが多い。

幸い是に過ぎたるはない。ことしの中秋の名月の如く、台風一過のあと、雲ひとつとどめないほどすみわたり、「名月や池をめぐりて夜もすがら」の句の如き心地がする。尚将来への発展を心から皆様と共に祈りたい。さて今年も「読書週間」が始まった。年間を通じて「週間」と名づけられる行事は多いが「新聞週間」に続いて、とくに関心を持つ所以は、共に眼を通じて精神に滋養を与える点にある。

マス・コミの発達につれ、読書欲が減退しているのが実情だというが、そこにも現代の病根がある。なるほどテレビの普及は、インスタントに、知識をうけとり、思考力を衰退させる。

コツコツと頁をくって読書をするのには、多大の努力がいるし時間もかかる。それによって得た知識は、他人のもので自分のものではない。「自己の胸中より流出せざるものは、家珍にあらず」の古語がある。わが心より生まれ出たものでない限り家宝ではない。インスタントのものより時間はかかっても遅々に自分の眼を通し、イヤ自分の体で消化しない限り、つけ刃にすぎない。

たとえ小篇であっても、実際に原稿用紙のワクに、一字づつ書きつらねてゆく経験を持つものは、他人のどんな雄篇でも寝ころんで読む気にはなれない。よく知識人といわれる人が、趣味を問われて「読書」と答えているのを見ると何ともいえぬさびしさを感じる。

古い木字版の書物に、拡大鏡でなければ読めないような細字を、毛筆で書き入れてあるのを見ると気がひきしまってくる。暗い行燈やランプの下で、よくここまで丹念に労作されたものだと感じる。

第二次世界大戦で散華した若い学徒兵が、特攻機に乗り込む寸前まで、岩波文庫の哲学書を読みつづけていた。「僕が死んでも、明るい燈灯を遥々なつけて、後輩が安心して読書できる日が来たら本望だ」との遺書を残している。

若き学徒のひた向な一心には胸がうづくが、燈下親しむの時の言葉も遠くなったようだ。しかし愛読書を持たぬ人は、さぞかしさびしいであろう。読書のしかたにも色々ある。「文を先にして意を解してはいかぬ、意を撰んで字を読むべきだ」との読書法のあることも、心に銘すべきである。近ごろテレビの娯楽番組で、静かな秋の夜長という実感が少なくなった。静かに虫の音の海潮音すら、聞くことが出来ない。私共はしばらく世俗のスイッチをきり、秋灯火に生命の根源を培う読書に親しみたい。「この道は行く人なしに秋の暮」といった古人の心持を泌々と味合って見ることも必要なのではないか。

中里村の古文書より
桔梗ガ原 (1)
清津峡小学校 阿部九二三郎

清津川が悠久の才月をかけ、現在の流れとなるまでに、幾多の大段丘、中段丘、小段丘を形づくったであろう。その小段丘の一つが桔梗ガ原であることは現地を見ればたちまちうなづけるし、地図でも見当はつく。特に現地に立てば眼下の清津川の偉大な力をまざまざと見せつけられる。この川が天下の名勝、天然記念物清津峡をも刻んだのである。

桔梗ガ原、その名からしてこの小段丘は原野で、往古は名のごとく、秋の七草の一つ桔梗が咲きかゝっていたことであろうと思われる。原野と書いたが、荒野といった方が適切かも知れない。

その荒れ野が、いつ作物が仕付けられる土地となり、水田となり、今日の美田となったのか。考古学的、地質学的なことはぬきとして、この疑問を解くのは言い伝え、または古文書による外はない。言い伝えといえども古文書の裏付けが欲しい。

さてその古文書であるが、私は桔梗ヶ原開田に関する古文書を十分に見ている訳ではない。辛うじて桔梗文書（村山氏所蔵）小原文書（広田氏所蔵）公民館文書（公民館所蔵）を手にする機会があって、桔梗ガ原の名を知り、関心をもち、現地を踏査した。

そこで以下私の目に触れた範囲内で桔梗ガ原の歴史を書いてみる。

最初に疑問とした「いつ作物が仕付けられるようになったか」についての解答はいまは伏せて置きたい。

古来土地調査はしばしば行なわれたらしく、古代は別として太閤検地（豊臣秀吉が行なった検地一文禄検地ともいう一一五九四年）が有名である。江戸時代に入ってからでは天和三年検地水帳、同検地名寄帳（一六八三年）宝暦七年新田検地帳、同検地名寄帳（一七五七年）天保四年（一八三三年）同十四年（一八四三年）新田検地帳あたりが各地に広く残っているようだ。

太閤検地では六尺三寸を一間、一間四方を一歩、三〇歩を一畝、一〇畝を一反、一〇反を一町として測量した。江戸時代以降の検地、つまり宝暦以降の検地では六尺一寸を一間とし、あとは同じだから同じ一反、一町といっても、大閤検地よりはいくらか狭くなった勘定になる。これは田畑だけでなく屋敷も測量の対象となり、それぞれ等級が付せられた。

なぜ土地調査のことを詳しく書いたかというと、この検地帳に載せられた反別、等級によって年貢が課せられるのである。つまり検地帳に登録された農民は土地耕作権者であり、年貢の負担者であった。

年貢、桔梗ガ原の年貢のことで高道山、小原、千溝、荒屋、通り山、田中、桂、藤原新田の各部落が苦労させられるのである。

清津川が信濃川に合流する手前で、国道一一七号線の清津川橋と交差する。その約一㌔上流の右岸に開けている美田、稲荷開田から、収穫の鎌音がさわやかに聞こえてくる。今年は豊作の声が高く、刈鎌をもつ人達の表情もひときわ明るいように見受けられた。

私はいま稲荷開田といったが、これは国土地理院五万分の一地図所載の名称で、この稲荷開田を中里村の人達は桔梗ヶ原と呼ぶ。桔梗ヶ原、まことによい名である。

講演会のお知らせ

NHK館野守男先生
来村 11月14日 会場
田沢小学校で

NHKのニュース解説でおなじみの館野守男先生の講演会を左記により開催します。激動する社会情勢と複雑な経済情勢の理解を深めるため多数ご聴講くださるようお知らせします。

記

①日時 十一月十四日午後一時より
②会場 田沢小学校家庭室
③講師 NHK放送世論調査所長 館野守男先生
④演題 「時局経済問題について」
主催
中里村貯蓄推進委員会
中里村商工会
中里村公民館

なかさと文芸
文化祭俳句

◎俳句、一般の部

天位 角間 深見保三郎
もの言わぬ石と語りて秋深し
地位 宮中 吉楽 栄松
夕紅葉拝殿閉ざす錠の音
人位 下山 山田タカイ
新聞のおびもとけすの秋日和
五客 桂 山本 ケン
物思う心に泌み入る虫の声
如来寺 井ノ川雷雄
織る母の背の子は温し山粧ふ
宮中 吉楽 栄松
朝晴れの小田に群らがる稲雀
下山 山田タカイ
刈り終いて拝む心でしまふ鎌
山崎 松香庵
鮎を釣る竿に夕日のかゞりけり

創立十周年を迎えて

中里村議会議長 斉喜政治

昭和二十八年九月国に於いて町村合併促進法が制定され、私共は当時、連日連夜議論研究を重ねましたが、最後県の試案に基く中魚沼中部大合併の理想実現に踏み切ったのですが、なかなか意の如く進まず、昭和三十年三月三十一日、先づ旧田沢村と倉俣村が合併、続いて三十一年四月一日旧中深見村田代部落が区域変更でこれと合併、同年九月三十日、貝野村隣部が続いて合併いたしまして、現在の形が出来上った訳でございますが、それからすでに満十年、この間いろ〳〵な事業面で、或いは行政面で、画期的なことがらが沢山ございましたが、なかなかすく十二線の開発、清津川右岸段丘地開発着手、待望久しかった役場庁舎の新築、更に時代の要求に伴う小中学校の体育館建設、校舎密閉度の増改築、農林道はじめ幾多の橋梁等整備拡張、公民館、消防施設、水道施設等に見られる様に児童の福祉施設、その他数々の産業施設等、歴代首長はじめ執行部の並々ならぬ御苦心と関係各位の御理解ある御協力によって着々実現いたし、愈々発展の途上にありますことは誠に同慶の至りに堪えない処でございます。なお、いずれの事業遂行に当たりましても、国県の並々ならぬ御配慮と、村外在住の各位様からも絶大なお力添えを賜きますことは、私共の常に忘れ得ぬところでございまして、この機会に紙上を借りて改めて厚く御礼を申上げる次第でございます。さて中里村も前述の如く既に十才を数え、あらゆる機関も大体統合いたし、旧来各地区それぞれの産業指導体系も此処に漸やく一貫した指導体制に入りつゝありますことは極めて喜ばしいことで、何んと申しましても純農村である私共の村としては農業の基盤を拡張整備し、構造の改善を計り、純作を中心としながら養蚕、畜産、林業に力を注ぎ、更に花キ、苗木、たばこ、ホップ、養魚等即ち適地適産の実を挙げ、農家所得の増強を計り、ひいては中小企業の合理的近代化と発展を期さなければなりません。産業の合理的な進展を計かると共に、更に未解決の交通教育衛生福祉多の施策施設の整備充実が望まれて居ります。特に交通の問題は最近社会の進歩に伴って、急速に車輌の数が増え大型化して来ているが道路行政はなかなかこれと並行いたしませんために、事故や危険は増す一方、何といっても地方発展の根源は道路橋梁の整備拡張を計ることが最大の急務であって、なお、これが実現に当っては関係部落、関係地主の御理解ある御協力が絶対必要であることは申すまでもありません。ここに発足十周年を迎えるに当って、過去に於いて本村発展のため種々御尽力下さいました先輩各位に対し、衷心より感謝の意を表すると共に、今後我が中里村が愈々飛躍的発展をいたし、お互の夢と希望が一日も早く達成されますよう、村当局と全村民各位が和衷協力、大いに努力邁進いたさねばなりません。何卒各位様益々御健勝で大いに御奮斗下さいますよう心からお祈り申上げ私の言葉といたします。

町村合併十周年を祝す

中里村教育委員長 藤田五郎

三村合併が実現して、中里村が誕生してから早くも十年の歳月が流れ去りました。この合併にあたっては合併促進委員長として現村長が、又副委員長として私が委員各位と共に真剣西走した数々の思い出が懐しく、かつ感慨深く蘇えってくるのであります。従って今回の記念行事にあたって、当時の状況及びその後の推移につき所見を開陳する義務を果す機会を得たことは、私として喜ばしいことであります。合併の主旨は言うまでもなく地方自治の本旨を十分に実現し、住民の福祉増進と町村規模の適正化をはかりその組織運営を合理的かつ能率的にするため行なわれたのであり、人口も八千人以上の町村となることが狙いであったので当村は適正規模の自治体となったのであります。旧三村の当事者が各々村民の意志を代表してこの合併に踏み切る決意をもって臨まれたのであります。全国に於いて数多くの合併が行なわれ、政府の計画の九十八%が実現したといわれておりながら、未だに分村騒ぎを起している所が後をたたぬ事例は、合併の難しさを如実に物語るものであります。当村も合併当初は将来の発展利害得失につき、あらゆる角度からも検討して杞憂の念をもたれ、かつ合併五ヵ年計画の実施にあたっても計画変更を余儀なくされた面もあり、又貝野村の一部が一方的の見解で十日町へ合併する等幾多の難問題があったにも拘わらず、全村一致結束今日に至ったことは誠に御同慶の至りであり、心から祝意を表する次第であります。

合併後の村内各分野は逐次発展の途上にあり、農工商を問わず内容外観共に充実し、近代化しつゝあることは目をみはるばかりであります。特筆に価する事項として多年の懸案であった段丘地帯の開拓パイロット事業が実現の運びとなり蒲工の段階に到達し、その前途に光明を与えたことは感慨にたえません。又重大ニュースとして苗場山麓開拓パイロット事業と称し農林省と県が発表、之大構想は、一万六千ヘクタール、百五十億円という大事業であるだけに、今後関係市町村の良識ある大局的見地に基く事業の実現を期待するものであります。

又隣越当部里道の誘致、北越線敷設とこれに伴うローカル線の強化、清津峡の観光開発、十二線道路完成による交通網の改善と大規模スキー場の設置、苗場山の限りなき資源開発等々限りなき夢を追う当村の前途は、実に洋々たるものがあります。

さて、郷土の発展は何よりも人材を求むるにあり、その育成は教育にあることは申す迄もありません。教育関係も合併後各学区共、必要最少限ながら増改築施設々備が行なわれつゝあり適正なる教員配置と公民館長、社教主事等の活躍により、学校社会間教育共万全を期しています。

この度役場庁舎も堂々たるものが完成し喜びにたえません。この庁舎運営の第一原則は申す迄もなく村民のためということであり、その運営の妙を期待するや切なるものがあります。以上観じ来って、合併後一歩一歩村政は前進しつゝありますが、地域住民として当面最も速かに実現を期待している事項は、村の中心と地域を結ぶ交通の便と医療の面であります。文化は交通からの叫びと医療の機会均等は、村民福祉の絶対条件であるとの点から痛切な叫びであることはおゝい離き事実であります。

私も合併当時の責任者の一人として、この問題に常に脳裡を去らぬのでありますが、村当局も勿論無為無策である筈はなく、之が打開に全力を傾注し村民の期待に副いうるよう善処しつゝあるものと思われますが、速かに具体的施策を講ぜられ、人心の安定を計ることを希うと共に、合併十周年を心より祝福し村の発展を祈るものであります。

赤い羽根募金完納ありがとうございました

中里村分会長 高橋幸作

社会福祉事業につきましては日頃格別のご協力を頂き感謝申し上げます。本年も県下のトップをもって赤い羽根共同募金を完納することができましたことは、村民各位の相互扶助精神と奉仕精神の賜ものと深くお礼申し上げます。当村の社会福祉事業の進展のため、共同募金の充実は重要であり村民各位の篤志は、各部落遊具設置、季節保育所の充実、母子老人身障の各福祉対策に使わせていただき、温いご理解を有効適切に配分しまして住民福祉の向上を図る所存でおりますので、何卒旧に倍してご支援下さらんことをお願い致します。

▽募金内訳

部落募金	二三三、九五九円
法人〃	二九、二〇〇円
街頭〃	三、四八八円
学校〃	八、二二三円
計	二七四、八七〇円

――座談会――

合併十年を省りみて

昭和二十八年に町村合併促進法が施行され、三年から三十一年にかけて田沢、倉俣、貝野の三ヵ村の合併によって現在の中里村は誕生しました。あれから十年、十一月十一日には、田沢中学校に於いて創立十周年記念式典が盛大に挙行されたが、公民館では座談会を開き、中里村十年の歩みと将来の課題につて、いろいろ話し合っていただきました

司会 まず促進法ができて三ヵ村合併にいたるまでのいきさつからどうぞ。

A 県では最低人口八千人以上の規模になるよう合併基準を示し、かなり強い行政的指導をしてきました。中魚沼郡の町村合併は十日町、川西、津南、それに中部の四つのブロックに合併を促進する構想を示してきたわけです。

B 中部合併は最初は田沢、水沢、貝野、大倉村も入っており倉俣村は津南という構想もあったが、倉俣、田沢は清津川を境界にしてこれまでいがみあい、六箇村は十日町ブロックとなってけっきょく中部地区は田沢、倉俣、貝野、水沢の四ヵ村合併の方向が打出されたわけだ。

A ところが、水沢村は村内事情も複雑で合併話には消極的だったので、中部地区大同合併の目標のもとに田沢村と倉俣村が合併にふみ切り、三十年三月三十一日中里村がまず誕生しました。貝野村との合併交渉も積極的に進められたが、貝野の村内事情もなかなか複雑でついにまとまらず、翌三十一年九月に中里村と水沢村に分村合併をせざるを得なかったのです。

司会 この分離合併は、水沢村との合併を前提とした合併だっただけに、水沢村の世論の大勢が十日町市合併に傾き、中部地区大同合併がついに実現しなかったことは、残念だったですね。とくに貝野地区の人たちの苦労は大きかったでしょう。

D 貝野地区の住民感情としては分村絶対反対の世論も少なくなかったのですが、ほんとうに残念でした。

司会 ところで新生中里村が当時一ばん力を入れたことはなんでしたか。

A 大きな問題としては鉄道上越西線の運動じゃなかったでしょうか。松之山地区の地すべりでこの問題はダメになってしまったが、それと清津川総合開発の問題もあった。

B 渡辺村長さんは農産業の振興に力を入れたが、任期途中で不帰の人となり惜しい人を失なってしまいました。

E 段丘地の話も大きな希望となっていましたね。教育の面も当時から重点が置かれていました。

F 公民館や青年団が中心になって新生活運動の一環として、環境衛生運動や生活改善もさかんでしたね。これはいつの時代になっても必要ですね。

A 教育の面では倉俣との合併によって清津峡の学校がスムーズに統合整備され、今になってみると本当によかったですね。

司会 ところで中里村も創立十年をむかえましたが、合併当時から懸案となっている問題もたくさんあると思いますが。

C まずなんといっても道路問題ですね。倉俣地区は雪季になると、いまだにオサ橋だ。田中隧道の工事も年々進んでいるが、なんとか永久橋をかけてもらいたいとおもいます。

F 貝野地区としても無医地区であり、早く宮中橋を架設して無雪道路化を実現してもらいたいですね。

D 交通事情がよくなれば中学校の統合問題も解決できるとおもう。

B 次代をになう子供たちの教育は一日もゆるがせにできない。それだけに学校問題はみんながしんけんですが、田沢中学校に統合するという考え方でなく、新しく中里中学校をつくるように考えてもらいたい。

C 保育所もせめて学校区ごとにつくってほしい。子供の保育の面からだけでなく、教育の面からもぜひ必要だ。

司会 さて、わが中里村も多年の悲願であった政住地開発の夢が実現にこぎつけたし、十二線も近い将来に貫通の見通しがついたが、村のビジョンということになると、どうお考えですか。

A 中里村は農業の村ではあるが、これからは恵まれた観光資源をもっと開発すべきだ。それから大工場の誘致はむりとしても、織物とか木材加工とか地場産業をさかんにして村民生活の安定向上をはかることが必要だ。

E 個々の経営規模によって条件のちがいや考え方のちがいはあるが、これだけ農地があれば農業だけでもやっていける。秋は山間農村はある程度百貨店農業がよいとおもっている。

B 私もそうおもいます。米だけでなくたとえば蔬菜、畜産果樹、たばこ、ホップなどうまく組合わせて多角的に経営すればよいとおもいます。

E これからがほんとうの農業の天国がくる時代ではないかとおもいます。

A 十二線が貫通すれば必然的に既設道路の拡張改修が必要だが、その時は沿線の人たちからは熱意ある協力をおねがいしたいものだ。

B 国民宿舎のような休暇センターもほしい。村民の憩いの場が村内に一つぐらいほしいですね。

D 総合的な大公民館を建設して村民会館にするような構想もよいとおもう。

A 合併して十年、ここらで新しい時代に即応した長期の見通しの上に立って村づくりの総合計画を立てる必要があるとおもいますね。

司会 このへんで、どうもありがとうございました。

中里村体育協会会員募集

中里村体育協会では、次のとおり会員を募集していますので、入会くださるようお知らせいたします。なお詳細は体育協会事務局（公民館樋口和一）へお問い合わせ下さい。

①募集期間 十二月十日まで
②入会方法 住所、氏名、年令を、事務局へ連絡してください
③会費 一人年額五十円

出席者

大島孝平（宇沢）
高橋尚久（宮中）
冨井喜重（如来寺）
高橋源平（宇川）
高橋信雄（倉俣）
斉藤大蔵（公民館長）
司会 樋口和一（公民館主事）
（順不同敬称略）

写真 公民館での座談会

C 当時は各村に合併促進委員会が設けられ、連日のように会合が開かれ、しんけんに新しい村づくりの構想を煮つめてきたが、六箇村は十日町ブロックとなってけっきょく中部地区は田沢、倉俣、貝野、水沢の四ヵ村合併の方向が打出されたわけだ。

人生往来

◎産声

氏名	父の名	部落
村山大成	忠男	東田沢
山本英幸	政雄	山崎
松沢竜子	義尚	〃
保坂喜代美	幸吾	芋沢
井ノ川一雄	和	〃
南雲昌子	一一	田中
南雲章子	仁	本屋敷

◎死亡

氏名	年令	部落
富井幸蓮	(男)	山崎
吉楽あけみ	(三ヶ月)	上山
井ノ川正治	(男)	山崎
藤ノ木イク	(女)	小出
藤田慶吉	(男)	宮中

◎婚姻

新郎	佐藤庚治(二十六)	塩沢町
新婦	山田ヨキ子(二〇)上倉	
新郎	斎藤東司(二三)山崎	
新婦	中沢美枝子(二三)津南町	
新郎	平沢勇一郎(二七)小千谷	
新婦	斉藤トシ(二三)通り山	
新郎	石沢晴次(二八)十日町	
新婦	山田マユミ(二三)上山	
新郎	大島吉利(二三)倉俣	
新婦	樋口幸枝(二三)千潟	
新郎	根津義春(二七)芋川	
新婦	滝沢ヨシエ(二七)田代	
新郎	冨井正照(二五)十日町	
新婦	柳カツイ(二四)本屋敷	

中里村10年のゆみ

中魚沼郡の中部地区に、未開発の広大な土地資源を有し、将来の飛躍的な発展を期待されるわが中里村が発足してから、早くも十年余の才月が過ぎ去った。大小幾多の災害にも見舞われ、また激しく目まぐるしく変る社会、複雑な政治経済情勢の動きを背景に、紆余曲折、村政十年の歩みも必ずしも平担な道ではなかったが、中里村創立の理想、豊かな村づくりをめざし、村民、和合協力一体となって今日まで進んできた。

ここに創立十周年をむかえ、中里村十年史とまでは紙面の都合でいかないが、村政十年の歩みを概観し、一層の発展を期して村民各位の創意のある努力、ご協力をいただきたい。

昭和三十年 中里村の誕生
初代村長に渡辺利三氏

田沢村長太島孝平氏

▽一月二八日　田沢村、倉俣村は、それぞれ村議会を招集し両村の合併を議決した。

▽三月三〇日　田沢村、倉俣村は、それぞれ古い歴史を閉じて新しい村づくりのため閉村した。

▽村議会は、法の特例により旧村議会議員があたり、一ヵ年任期が延長された。村議会議員三十九名、議長に高橋良平氏選任。

▽中里村の戸口及び面積　人口八千百五十三人、戸数二百八十六戸、面積百十四・八一平方㌔

▽四月三〇日　中里村長選挙。渡辺利三氏が選挙会において

高橋良平議長

渡辺利三村長

広田重政議長

に斉喜政治氏。

▽五月一二日　広田富左衛門氏が初代中里村収入役に、九月二十二日滝沢謙治氏が初代中里村助役に就任した。

▽十月一日　国勢調査行われる。人口八千百八十四人、戸数千三百七十戸。

▽十月二五日　中里村議会解散し、十一月二十日村議会議員一般選挙執行される。定員二十二名となり十二月六日、初の村議会招集され、議長に広田重政氏当選。

▽四月一日　中里村国民健康保険事業を開始する。世帯主一部負担は五割。

▽国税の減税により、地方税の減収をきたさぬよう道府県民税、市町村民税の税率が引上げられる。

▽積雪寒冷土地改良事業、清田山水路完成。

昭和三十一年 貝野村の一部と合併

▽四月一日　津南町との境界変更により、大字倉俣丙の区域雑水山、中新田、中田の三部落が津南町へ、津南町大字中深見丙の区域、田代部落が中里村へ編入した。

▽九月二九日　貝野村の閉村、中部各村の合併は水沢村、貝野村の村内感情の統一が収拾できず、前提として貝野村は二分し、中里村、水沢村に分離合併を決議。古い歴史を閉じ閉村した。

▽四月三〇日　貝野村の一部と合併。昭和三十四年三月三十一日までに中部合併を目途に中里村、水沢村は貝野小中学校組合、国保貝野直営診療所組合の一部事務組合を設置し管理運営にあたる。

▽中里村議会は貝野区域の議員十一名を加え、三十三名となり、議長に広田重政氏、副議長に高橋門吉氏が選任された

▽一〇月一日　教育委員会法が改正され、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の公布施行により委員は公選制から任命制となる。委員長に高橋幸作氏、教育長に阿部英一氏就任。

▽中里村固定資産評価審査委員の選任が行われる。抽選で任期一年、二年、三年の委員を決定する。

▽中里村民生委員協議会が、中央共同募金会、県共同募金会表彰を受ける。

▽市之越地区農地交換分合実施三十・二町歩附帯事業農道千四百五十五㍍、橋梁一ヵ所完了。

昭和三十二年 渡辺村長の急逝
高橋幸作氏が当選

▽七月一六日　農業委員会委員選挙。田沢、倉俣両地区の農業委員会は解散し、中里村農業委員会となる。定員十六名

▽二月二五日　中里村長選挙執行され、投票の結果、高橋

▽入場

施設の整備にあてられ的税とされた。

▽新農山漁村建設事業に着手、貝野雑蚕共同飼育所等六ヵ所施行、清田山線林道を開設千三百四十二㍍。桂、藤原地区農地交換分合実施二十町歩農道千八百六十一㍍完成。

昭和三十三年 貝野小学校屋体の改築
開拓地の基幹事業竣功

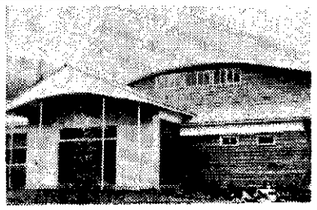
▽四月三日　貝野小中学校組合の解散通告を水沢村より受け四月四日、中里村議会は存続を決議し水沢村に通告する。

▽貝野小学校屋内運動場改築、木造平屋建一百六十二㎡完成。

▽たばこ消費税の税率が引上げられる。自転車荷揚税が廃止され、軽自動車税とされた。

▽国営水沢、津南、開拓建設事業竣功する。開拓地の基幹事業たる道路、水沢、大谷内ダム、珠出ダムなど完成。地区内の開田、開畑作業に着手。東田沢に七・五町歩開田する。

▽新農村事業田沢雑蚕共同飼育


貝野小学校の屋内運動場

所、桂地区土地改良事業施行堀ノ内地区農地交換分合十五町歩、農地造成十町歩完成。

▽田沢、倉俣農業共済組合の合併行われる。組合員九百二十名。

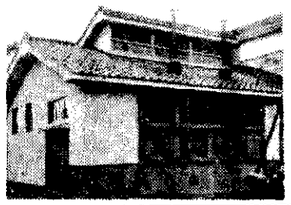
昭和三十四年 村議会議員選挙
議長に斉喜政治氏

斉喜政治議長

▽五月一三日　収入役任期満了広田富左衛門氏が再任、九月二二日助役の任期満了、滝沢謙治氏が再任される。

▽一月二〇日　中里村議会議員一般選挙が執行される。定員二十二名となる。同月二十四日初議会招集、議長に斉喜政治氏選任される。

▽田沢小学校に給食室を増築、木造平屋建二六坪、中里村はじめての完全給食を実施。


田沢小学校給食室

▽固定資産税の免税点の引上げがなされる。

▽三三年七月水害による東田尻頭首工の災害復旧工事を村営施行。

▽小団地開発整備事業に着手、林道阿寺線、大中田線二千㍍土倉水路等五ヵ所施行。

復旧した東田尻の堰堤

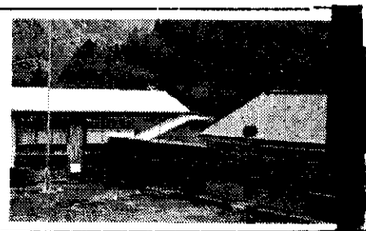
昭和三十五年 清津峡小学校の独立
田沢中学校寄宿舎建設

▽七月一五日　農業委員会委員一般選挙、委員会長に高橋幸作氏選任。

▽新町村建設五ヵ年計画策定される。

千七百十一世帯。

▽田代線林道延長千四百五十四㍍を三十四年、三十五年度、継続施行。七川筋、倉俣頭首工、地震地等十二ヵ所災害施行。


独立した清津峡小学校

▽八月三十一日　田沢中学校高道川分校を廃止し本校に統合、夏季はスクールバスを運行、冬季は寄宿舎に収容して教育効果の向上をはかる。

▽田沢中学校寄宿舎建設木造二階建延二百坪、貝野小学校給食室木造平屋建三十二坪増築、倉俣中学校屋内運動場建設鉄骨平屋建一四六坪を完成する。

▽一〇月一日　国勢調査実施、人口九千百六十一人、世帯数

田沢中学校生徒通学バス

田沢中学校の寄宿舎

昭和三十六年 村長選挙
高橋幸作氏再選

▽一月二七日　中里村長選挙執行される。当選者高橋幸作氏。

▽田沢中学校々舎増築木造二階建、百四十三坪完成する。

▽中里村へき地保育所が認可され、干溝に開設する。

▽国保、国民皆保険制度が施行される。給食、歯科、ほてつ制限の解除。二重加入者の除外、育児手当金新設。第一回中里村母子大会を開催。

▽電気ガス税に免税点制度が設けられた。村内全域に亘り、

石岸線調査を申請。県にがい開始される。

▽林道新屋敷線延長三千三百四十一㍍竣功、小団地開発整備事業、倉俣農道八百十六㍍、牧畑案道等七ヵ所完了。

昭和三十七年 十二線工事再開
自衛隊の来村

▽三月三一日　水沢村の閉村、貝野村の分村合併により鋭意中部地区の合併促進を図ってきたが、住民感情の協調は進展せず、遂に中里村、水沢村の合併は成立しないまゝ水沢村は賛否両論を住民投票により表明、水沢村議会は、四月一日十日町合併を議決、閉村した。従って中里村、水沢村組合立による貝野小、中学校組合、貝野診療所組合は事実上その活動を停止した。

▽四月三〇日　中里村助役滝沢謙治氏退職する。

（四頁につゞく）

（三頁より）

▽七月五日　主要地方道高田松之山六日町線十二峠道路開さく工事に自衛隊施設部隊来村八月三日、現地において起工式を行う。

十二線工事の起工式

▽田沢中学校屋内運動場建設鉄骨造平屋建三百八十三坪完成する。

▽中里村が中央共同募金会表彰を受ける。

▽国保世帯主一部負担金四割となる。インフルエンザ予防接種を実施する。

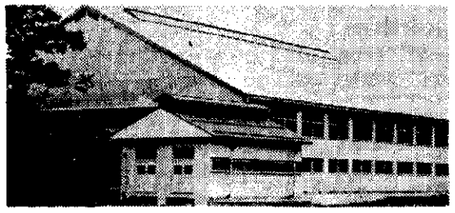
▽新評価　基準により　農地（田畑）を村内全域にわたり評価する。市町村民税完納により県知事より感謝状を受ける。

▽中里村農業共済組合、具野農業共済組合が農業共済事業を村に移譲する。

▽和牛導入八十三頭元牛生産の目的で三ヵ年三百頭導入の計画をたて肉牛生産の増産をはかる。

▽桑たばこを導入し畑作振興をはかる。三十七年度八・七㌶を作付。四十年度栽培二十・九㌶となり反当九万四千円の収益をあげる。

▽程島林道延長二百八十四㍍竣功。桑園造成、改良事業市之越、小沢部落にて七㌶完成。



田沢中学校の体育館

共同募金で中央表彰

昭和三十八年
村議会議員選挙執行
役場に課制

▽二月一日　中里村役場課制執行、企画、行政、産業建設、税務、社会厚生の五課を置く。

▽七月一五日　中里村農業委員会委員一般選挙無投票、定員十六名推薦委員六名、会長に高橋[illegible]となる。第一回中里村健康家庭表彰。日赤急救車一台配置となる。

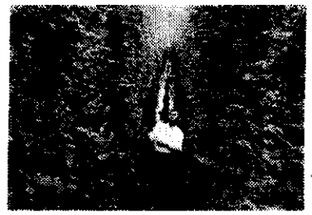
日赤急救車入る

▽ホップ栽培導入、三・二㌶、四十年度栽培面積五・六㌶となる。

▽開拓地開墾諸事業が豊巣、鷹羽を中心に行われ、開田十㌶、水路、溜池、道路等施行。これにより開拓地全地区で水稲栽培可能となる。

桔梗原土地改良区、白羽毛水路隊道被災八八米、コンクリート巻立復旧する。

▽国道一一七号線山崎商店街の道路改良舗装できる。



市之越のホップ栽培

▽田沢中学校遠距離通学用スクールバス新車購入。

▽国保、世帯主一部負担金三割

昭和三十九年
児童舘の建設
石沢善重郎氏保育園寄附

▽五月一〇日　新潟国体旗リレー行う。六月六日施行の新潟国体行事の一環として国体旗リレーに参加する。

▽六月一六日　新潟大地震発生十九日より救援物資多数輸送する。

▽七月三一日　田沢中学校土倉分校を廃止し、本校に統合、通年制寄宿舎を開設し、収容する。

▽清津峡小学校々舎増築木造二階建百四十九坪、田沢中学校隋建九十坪、同校教員住宅新築一棟木造二階建二十一坪完成、新潟地震により具野中学校及び倉俣中学校屋内運動場被災し、修復工事施行、田沢小学校及び倉俣小学校に教員住宅各一棟ブロック造平屋建十五坪完成。

▽中里村児童舘の建設及び石沢善重郎氏の寄附により保育園が建設された。

▽十月一日　村山軍英氏教育長

中里村児童舘完成

盛大な国体旗リレー

祝　村創立10周年

有利な桑たばこ栽培

完成した林道

倉俣小学校教員住宅

石沢氏寄附の保育園

昭和四十年
台風24号で大被害
村長選挙行われる

▽八月七日　役場新庁舎建設工事の起工式が行われる。

▽一〇月一日　国勢調査実施、人口八千三百四十一人、世帯数千七百五世帯。

▽一一月二五日　中里村長選挙及び議会議員補欠選挙執行される。村長に高橋幸作氏、補欠議員に江村芳雄氏当選。

▽村内全域に亘り家屋の悉皆調査が行われた。市町村民税の完納により県知事より第四回目の感謝状を受ける。

▽清津峡小学校々舎改築木造二階建百四十九坪、田沢中学校教員住宅新築木造二階建二十四坪完成。

▽中里村へき地保育所移転。白羽毛に児童遊園を設置する。

▽国民健康保険世帯主一部負担金三割となる。

▽清津川右岸総合開拓パイロット事業が、国費調査地区として承認となる。

収入役藤田宇一氏

助役広田富左衛門氏

▽五月二八日　中里村助役に広田富左衛門氏、収入役に藤田宇一氏が就任。

▽八月七日　役場新庁舎建設工事の起工式が行われる。

▽一〇月一日　国勢調査実施、人口八千三百四十一人、世帯数千七百五世帯。

▽一一月二五日　中里村長選挙及び議会議員補欠選挙執行される。村長に高橋幸作氏、補欠議員に江村芳雄氏当選。

▽村内全域に亘り家屋の悉皆調査が行われた。市町村民税の完納により県知事より第四回目の感謝状を受ける。

▽清津峡小学校々舎改築木造二階建百四十九坪、田沢中学校

役場新庁舎の完成

▽七月一五日　中里村農業委員一般選挙執行、委員長に高橋幸作氏選任。

▽村民税基礎控除の引上げ、配偶者控除の創設、扶養控除二人以下の引上げ等が行われた固定資産税は土地の新評価に伴い税の均衡化をはかるため四十一年度から漸新的に課税

昭和四十一年
段丘地開発に着工
役場庁舎の完成

▽六月一四日　役場新庁舎竣工検査及び、引継終了し、同月二十五日旧庁舎より移転完了した。

▽田沢小学校々舎増築木造二階建百二十三平方㍍、清津峡小学校屋内運動場増築木造平屋建百三十四平方㍍完成。

▽具野地区にへき地保育所を設置する。

▽九月十七日　台風二十四号により清津川、鈴川流域を中心に村内一円にわたり、災害発生、農地及び農業施設五十三ヵ所被災。

▽村営簡易水道中央地区敷設完成、給水開始する。これよりさきに、三十五年より倉俣、芋川、田沢如来寺、東田尻、芋沢、程島、鷹羽、豊里地区にも村営で敷設した。

倉俣地区の大水害

中央地区水道給水場

固定資産税の激変緩和の措置が講じられた。

▽新潟地震により豊里溜池他三ヵ所被災する。西田尻地内治山事業開始され堰堤工事施行

改良百四十・[illegible]化及び植の受益面積は四百[illegible]る。竣工予定は、[illegible]年度。

▽十二線道路の猿倉隧道完成。これまでに出来上った新設道路は延長二千五百七十㍍。今年度の工事は七百五十一・五㍍が予定され、中里村地内の工事はあと道路が約五百㍍、隧道が約四百㍍でおわることになっている。

―村のお台所―
財政収支のあゆみ

三千三百四十九万一千円。こと「十年一昔」の感慨ひとしおである。きびしい社会情勢経済事情の中をきり抜け、あくまで健全な財政を保ちつつ成長してきた村のお台所に村民の皆さんから今後共一層深いご理解とご協力をお願いしたいものである。

中里村十年間の才入才出決算

年次	決算額 才入	決算額 才出	決算額 差引残額
	千円	千円	千円
31	34,820	33,491	1,329
32	54,020	52,818	1,202
33	59,883	57,419	2,464
34	77,284	74,472	2,812
35	99,721	96,756	2,965
36	99,118	98,030	1,088
37	113,270	112,999	271
38	128,276	125,093	3,183
39	140,970	133,208	7,762
40	181,440	175,756	5,684
41	316,650	316,650	0

※ 昭和41年度は予算額である